

元気なサケ稚魚を育てる工夫

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-05-31
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 八木澤, 功
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006400

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



元気なサケ稚魚を育てる工夫

サケは、生まれた河川の上流域にもどって、卵と精子を川床に放出し、受精した卵が稚魚まで成長します(写真1)。



写真1. 自然界では産卵と放精の後、すぐに受精する。

岩手県のふ化場は、サケ親魚を捕まえる捕獲場と採卵場が河口付近にあります。河川水に海水が混ざり、受精させにくくなることがあります。そのため、採卵場で卵と精子を混ぜた状態でバケツ等に入れ(写真2)、上流域のふ化場に運んでから、井戸水を注いで受精させていました。



写真2.
サケの卵に精子をかける。この時には受精していないが、井戸水を注ぐと受精する。

しかし、卵に精子をかけた後、受精させるまでの時間が長くなると死亡する卵が増えます(写真3)。

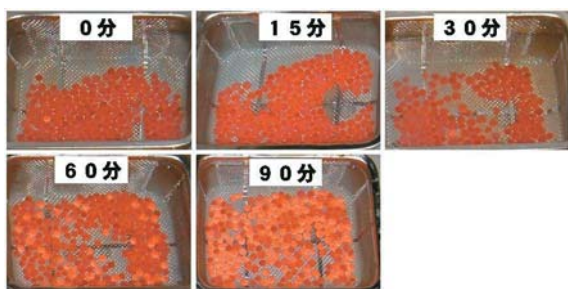


写真3. 採卵から受精までの経過時間と卵の様子
(白っぽいのは死卵)

これまでの方法には、採卵から受精までに時間がかかり、その後放流できる稚魚に育つまでの生き残りが不安定になるという課題がありました。

そこで、サケ親魚を河口域で捕獲し(写真4)、上流のふ化場に活魚輸送した後、ふ化場で蓄養後に採卵し、受精するように工夫しました。



写真4. 捕獲場からサケ親魚をトラックで活魚輸送

その結果、岩手県中部にある織笠ふ化場での発眼率、ふ化率、浮上率、生産率は向上し、生産率(稚魚まで成長する割合)では78%から89%と10%以上も向上しました(図1)。

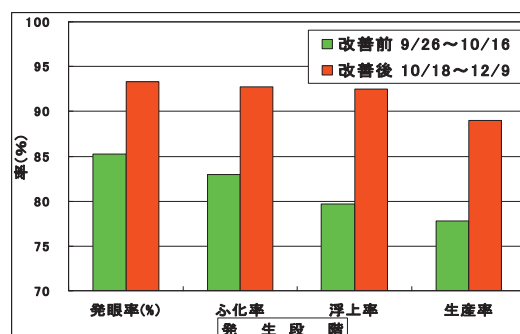


図1. 改善により、稚魚までの生き残りが向上

このような工夫は、岩手県北の久慈川、県南の盛川のふ化場でも試みられています。元気な稚魚を放流することにより、サケの回帰率が大きく向上することが期待されます。

研究担当：調査普及課 八木澤 功

